

京 芸 通 信



Kyogei Tsushin

特集 1980 — 2023

く つ か け

こ う

沓掛キャンパス考

沓掛2023

—映像配信のアーカイブ実験室

この秋、全国ロードショー

映画『ミュージコフィリア』

VOL.

27

京芸トピックス

2021年上半期の京都芸大の出来事

学生作品紹介

《庭》尾崎 晴さん(上野の森美術館大賞受賞)

NEW
CAMPUS 2023
京都芸大は移転いたします

京都市立芸術大学
Kyoto City University of Arts — founded in 1880 —



1980-2023

沓掛キャンパス考

これまで度々移転を繰り返してきた京都芸大。1980年、沓掛の地で初めて美術学部と音楽学部はひとつのキャンパスとなり、それから約40年が過ぎました。2023年に京都駅東部へのキャンパス移転を控えた今、沓掛キャンパスで学ぶ学生でもあった現教員をはじめ、本学の教員たちが沓掛キャンパス、そして京都芸大について振り返りました。

沓掛キャンパスで
一番印象に残って
いることは？

京都市郊外の自然豊かな環境で、さまざまな専攻の学生、幅広い専門の先生方と授業や研究ができたこと。（美術学部教員）

学生時には、よく大学付近の柿畑や家屋、田畑へ写生にいきました。同じように、同期や先輩たちも写生をしている姿をよく見かけ、京芸ならではの光景だと感じました。（美術学部教員）

作品展が近くなると学生が一日中制作して、不夜城となっていたこと。（美術学部教員）

着任してしばらくして、キャンパス内のあちこちに作品が現れたのを見て、芸術

大学に来たのだなと実感しました。（日本伝統音楽研究センター教員）



入学して間もない頃、音楽も美術もホールもあるからミュージカルができる!と言ったら本当に実現したこと。そして今もGMG（芸大ミュージカルグループ）が続いていること。（音楽学部教員）



ダムタイプというパフォーマンス集団を立ち上げ、大学を使えるだけ使って制作や公演をした事。学業は不真面目で

したが、活動はフルスイングでした。（美術学部教員）

学生だった頃、多くの美術学部の友人ができ、一緒にバンドを組んで芸大祭でライブをしました。教員になってからは、新しく発足した「現代音楽研究会」の顧問になったこと。学生と共有できるものが増えました。（音楽学部教員）



家族を初めて大学に招待したのが芸大祭でした。当時小学生だった我が子に、「ここがお父さんの職場だよ」と紹介したのですが、芸祭中の大学はお祭り騒ぎの真っ只中。しばらくの間我が子は、お父さんの職場はお祭り会場だと勘違いしておりました。（美術学部教員）

沓掛キャンパスで お気に入りの 場所は？

丸池の前のベンチ。学生や教員がウロウロしてお話する場所なので。
(美術学部教員)

壁画制作室1は、日本で数少ないフレスコ制作のための特別な教室。煉瓦積み
の漆喰壁は40年の間に、多くの学生
や教員が制作のために塗り、剥がした
漆喰層が独特で、魅力的な空間を作っ
ています。日本画の山崎隆夫先生（現・
名誉教授）が「この壁はええなあ」と
時々眺めに来られました。（学長）



沓掛キャンパスでの約40年。 昔と今で変わったもの、 変わらないものは？

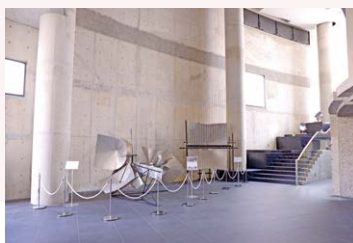
1981年からの沓掛キャンパスを知って
いますが、いつの時代も建物の隙間が
誰かに開発されているところは相変わ
らずかな。事務局の方々は大変かと思
いますが、このモゾモゾ感は大事なな
と思っています。（美術学部教員）

岡崎時代、沓掛時代を通じて変わらな
いもの、それは学生・教員の芸術への
愛。そして、最も尊いものは「自由」。(匿
名)

制作でも運営でも、手作りでみんなで取
り組んでいく感覚。（美術学部教員）

夏も冬も東ピロティで制作していた思
い出があり、愛着があります。またキャン
パス周辺では、うどん屋や何人かの
親しい先輩が住んでいたアパートなん
かもよく通った場所ですが、今はどちら
もなくなって思い出だけが残っています。
(美術学部教員)

大会館ホワイエとホール。バジェの音
響彫刻には風景としても音響的にも、最
高の場所だったこと。（音楽学部教員）



音楽棟。防音、遮音に問題があっても
色々な楽器の音や様々な曲が聞こえて
くるのが好きです。（音楽学部教員）

新研究棟8階の非常階段から山を見る
のが好きです。研究に行き詰まるとそ
こでボーっとしています。（日本伝統音
楽研究センター教員）

講堂。学内リサイタル、定期試験、オー
ディション、オーケストラ練習など様々
な演奏を見守ってくれた場所です。演
奏会には地域の皆さまも足を運んで下
さった。音響が素晴らしい。あと講堂
前の2本の木が好き。シンボリックで兄
弟のよう。（音楽学部教員）



石畳。キャンパス内を覆う旧市電の石
畳について学生と一緒に調べたことが
ありました。今では歩きにくいとか、台
車を押しにくいとか不評ですが、市電廃
止と沓掛キャンパス起工のタイミング
がちょうど重なっていたことから、この
石畳の光景は生まれたのです。（美術
学部教員）



キャンパス自体がキャンパスとなって、
変わらず学生達の創作を支えてきたと
感じます。（美術学部教員）

学生が高い意識を持って、自分独自の
生き方を生み出そうとしていることは今
も変わらない。（美術学部教員）

絵具や貼り紙の跡が無数に残る混沌と
したアトリエ棟は、私が学生時代を過
ごした30年前からそんなに変わって
いません(笑)。それと学生の真面目さ。
(美術学部教員)

RCA(ロイヤル・カレッジ・オブ・アート
/イギリス)との交換留学が始まるなど
国際化が進みました。変わらない事は、
京都芸大の自由な雰囲気でしょうか。
じっくり考えさせて学ばせるので、後で
大きく伸びる学生が多い様に思います。
(美術学部教員)

人は入れ替わり、建物も年をとったけど
学生の成長を応援する大学の包容力は
変わらない。（音楽学部教員）

結局、 沓掛キャンパスは どんな場所？

地面を掘り返したり、火を使って焼いたり、水をじゃぶじゃぶ使ったり、集まることも、一人で時間を過ごすことも、いつでも許される懐深い大きな空間が沓掛キャンパスの魅力です。(学長)

キャンパス内にサルが現れたり、音楽棟裏には狸の親子が住んでいたり、野生動物の生きている隙間があるからこそ自由な芸術が生まれてくるのではないのでしょうか。(音楽学部教員)



これからもずっと、好奇心と情熱と謙虚な気持ちがあれば、自由に活用できる大学であってほしいと思います。それは大学が用意した自由ではなく、意欲ある学生たちと教職員と一緒に創ってきたものです。引き継いでいきたい学風です。(学長)

昭和、平成、令和の様々なものやことを受け入れ、飲み込める懐の広い場所。
(美術学部教員)

学生時代の僕にとっては研鑽の場であり、教員としては若き才能との出会いの場だと考えています。(音楽学部教員)

学生、教員、職員の皆で作り続けてきた巨大なアート作品ですかね。(美術学部教員)

瀬戸内海に浮かぶアートの島のような、あるいはガラパゴス島のような。(音楽学部教員)

アジール(聖域)だと思います。(美術学部教員)

モラトリアム。隔絶してる感もありますが、良い意味でもモラトリアム感が高い。安心して大学生活を悩める。縦も横も繋がりが深く、先輩や先生の仕事を手伝うのも当たり前前、それが一番の学び。(美術学部教員)

楽しんだり、悩んだり、苦しんだりしながらも友と語り合ったり、自己と対峙しながら練習、研究に没頭できる場所。(音楽学部教員)



移転後も、 沓掛キャンパスから 引き継いでいきたい 京都芸大の良さは？

自由でありかつ世界に発信しようとする意欲。(音楽学部教員)

まわりが何と言おうと、おもしろいものはおもしろい、と自分の筋を通す芯の強さ。少数で濃い教育と、個性的な創造活動。(音楽学部教員)

芸術に打ち込める環境を大学全体で考えていく姿勢。(音楽学部教員)

許せる寛容さ。(美術学部教員)

ゆったり感。(美術学部教員)

多様性とほどよい規模。(美術学部教員)

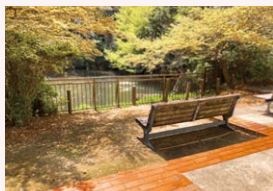
専攻を超えて、領域を超えて、横断的に学び、刺激し合い、未来の当たり前を創り出せる関係性。(美術学部教員)

沓掛キャンパスを写真で残す

KCUA_light さん

[@light_kcua]

2017年から本学構内の写真を毎日6枚ずつ匿名でTwitterに投稿。これまでの投稿画像は5千枚余り。『#沓掛2023』(詳細は次頁)にも携わり、沓掛キャンパスの今の姿を残す。



この秋、全国ロードショー 映画 ミュジコフィリア

京都の芸術大学を舞台にした映画「ミュジコフィリア」は、京都市立芸術大学が原作のモデルとなっています。映画製作にあたり、キャンパスのロケ地提供、演奏シーンの撮影、キャストへの演奏指導などで本学が全面協力しており、移転前にした沓掛キャンパスでの貴重な思い出の1つとなりました。重要な役割を果たす音楽は、本学在学・卒業生が作曲したオリジナル楽曲。超絶技巧を駆使した現代音楽や、クライマックスに使われた曲など幅広い楽曲を提供しています。ぜひ映画館でご覧ください。



©2021 musicophilia film partners
©さそうあきら／双葉社



本学での撮影の様子

学生・卒業生作曲による劇中曲にご注目！！

本作品のために曲を書き下ろさせて頂きました。録音や撮影の現場にも立ち会わせて頂き、貴重な経験ができたと思います。映画「ミュジコフィリア」という大きな作品の一部に携われたことを、とても嬉しく思います。



池内奏音さん
大学院修士課程2回生

オール京都ロケによる【音楽に情熱を注ぐ者たち】が奏でる青春群像劇



<https://musicophilia-film.com>

京都の芸術大学に入学した朔は、ひょんなことで「現代音楽研究会」に引き込まれる。クセの強い教授や学生たちが集まるそのサークルには、朔が憧れてきた幼なじみでバイオリニストの小夜、そして著名な作曲家の息子で、自身も天才作曲家と期待される大成がいた。実は、大成は朔の異母兄で、朔は子供の頃から色や形を「音」として感じる才能を持ちながらも父と兄へのコンプレックスから音楽を憎んできたのだ。だが天性の歌声を持ち、朔に想いを寄せるピアノ科の風が現われ、朔の秘めた才能が開花し始める。

原作は、文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞を2度受賞している漫画家さそうあきらによる同名作品。主人公・朔には、若手実力派として活躍し、本作が初主演となる井之脇海。朔の異母兄に、ミュージカルをはじめ幅広い活躍を見せる山崎育三郎。二人は実際にピアノ演奏を手掛け、見事なアンサンブルを披露している。そして朔に想いを寄せるヒロイン・松本穂香は主題歌を担当。透明感溢れる歌声で物語をエモーショナルに彩った。

脚本・プロデュースは『太秦ライムライト』の大野裕之。監督は京都生まれ、『時をかける少女』などの谷口正晃監督。



井之脇海さん



松本穂香さん



山崎育三郎さん

#沓掛2023 ー映像配信のアーカイブ実験室

「沓掛2023／映像配信のアーカイブ実験室」は、2023年の京都市立芸術大学移転に向けて、沓掛キャンパスの記録を写真で残すプロジェクトです。学生・教職員・卒業生など、さまざまな方々から沓掛キャンパスの写真を提供していただき、それを「本学に係る個人の記憶の集合体」としてまとめ、沓掛時代の京都芸大の記録をつくらうとする取組です。市民の皆様からのご提供も受け付けておりますので、是非お寄せください。



<http://www.kcua.ac.jp/arc/kutsukake/>

教職員がお気に入りの学内スポットを紹介する動画も

「沓掛2023」YouTubeチャンネルでは、毎回異なるゲストが学内を巡り、沓掛キャンパスを写真で残していく様子を公開中です。ゲストのさまざまな視点を借りて、学内を巡ることができ、関係者はもちろんそうでない方にも楽しんでいただけます。まだあなたの知らない沓掛キャンパスを、是非覗いてみてください。



YouTubeチャンネル「沓掛2023」キャンパスアーカイブプロジェクト
(ゲスト：井上明彦／撮影：阪本結)

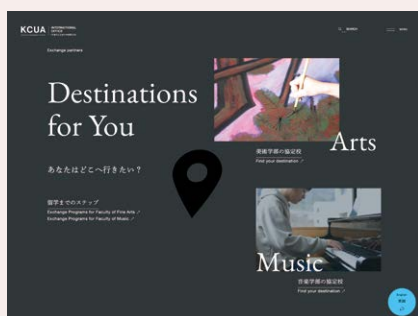
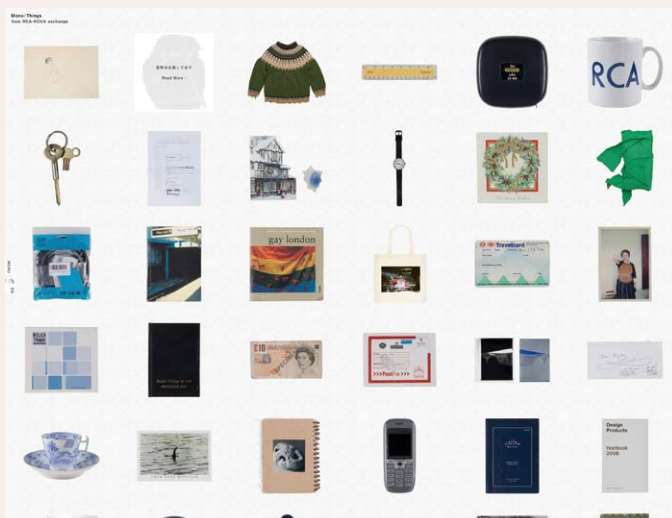
京芸 モノ/Things

2021年上半期の出来事

読者の皆様には是非知っていただきたい
京都芸大の活動や、最近の主なトピッ
クスをご紹介します。



「Mono/Things」
京都市立芸術大学×ロイヤル・カレッジ・オブ・アート
交換留学30周年記念ウェブサイト
<https://intl.kcu.ac.jp/rca-kcu30>



英国ロイヤル・カレッジ・オブ・アートとの 交換留学制度が30周年

本学の国際交流協定締結校である、英国ロイヤル・カ
レッジ・オブ・アートとの交換留学制度が、2019年に
30周年を迎えました。これを記念し制作した特設サイ
ト「Mono/Things」を公開中です。あわせて国際交流
ウェブサイトを新たに開設しました。どちらも是非御覧く
ださい。



京都市立芸術大学 国際交流ウェブサイト
<https://intl.kcu.ac.jp>

セブン-イレブン、京都物産出品協会との コラボ商品が秋に発売!

京都物産出品協会、セブン-イレブン・ジャパンと連携し、
本学の学生を対象に、「敬老の日」ギフトアイデアの募集
を行いました。その後、本学教員及びセブン-イレブン担
当者の審査を経て、優秀賞5点が決定し、2021年7月1日、
本学大学会館ホールにて、優秀賞の贈呈式を行いました。
優秀賞に選ばれたギフトアイデア商品は、9月3日から9月
26日まで京都市及び宇治市等のセブンイレブン47店舗で
販売されます。



〔優秀賞と連携先〕

犬塚朱里(美術学部2回生) × 株式会社 井筒ハッ橋本舗
柴田若奈(修士課程1回生) × 一般財団法人 京都陶磁器協会
清水麻衣(美術学部1回生) × 株式会社 西利
野儀伊代(美術学部3回生) × 小川珈琲 株式会社
平澤 綾(美術学部1回生) × 株式会社 野村佃煮

コロナ禍の演奏会 さまざまなかたちの発信

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、本学主催の演奏会も大きく影響を受けることとなりました。2月の大学院オペラ公演は、演奏会形式のオペラ・ガラコンサートとして、ライブ配信でお届けしました。5月の演奏会については、やむなく開催中止となりましたが、アカデミーオーケストラ特別演奏会と題して、動画配信いたしました。その後、緊急事態宣言下ではありましたが、感染症対策を徹底したうえ、ウェスティ音暦、ピアノフェスティバルを、お客様をお迎えして実施しま



「第165回 定期演奏会 大学院オペラ・ガラコンサート」(2021年2月14日)



「第166回 定期演奏会」(2021年7月8日)

した。昨年度開催できなかった夏の定期演奏会は、約830名のお客様にお越しいただき、オーディションで選ばれた声楽専攻生による独唱や、今年度新設されたユーフォニアムの学生も出演した吹奏楽曲、大編成の交響曲等、多彩で華やかな演奏をお届けしました。

手塚プロダクションと 連携に関する協定を締結



手塚プロダクションと京都市立芸術大学は、連携して研究・教育・事業を推進することで、手塚治虫作品の新たな可能性を模索し、次世代を担うクリエイターを育成することを目的に、令和3年6月1日付で連携協定を締結しました。今後の取組として、学生たちの新たな視点で手塚治虫の思想を再解釈し、さまざまな新規事業・研究を構築していきます。

国際日本文化研究センターと 学術交流・協力に関する 基本協定を締結



国際日本文化研究センターと京都市立芸術大学は、学術交流・協力に関する基本協定を令和3年6月1日付で締結しました。本学の令和5年度京都駅東部への移転を見据え、お互いが一層緊密に連携し、研究・教育の充実と社会へ寄与する機関としてさらなる発展を目指してまいります。

作品展VRサイト

<https://storage.net-fs.com/hosting/6425311/61/>



360°カメラで展示風景が観られる！ 作品展の特設サイトを公開

2021年2月10日から2月14日に本学及び京都市京セラ美術館において開催した京都市立芸術大学作品展について、新型コロナウイルス感染症予防等により会場に足を運べなかった方や、見逃した展示がある方などにも楽しんでいただけるよう、会場を360°カメラで撮影し、展示風景をご覧いただける特設サイトを公開しました。



本学陸上部の若林綾さん《2021 ユーススカイランニング※1世界選手権大会》に日本代表として出場！

本学美術学部在学生の若林綾さん（漆工専攻4回生）が、7～8月にかけてイタリアで開催された「2021 ユーススカイランニング世界選手権」に日本代表として出場し、最初の

種目、VK（パーティカルキロメートル）※2で7位と健闘、2種目のSKY（スカイ）※3でも10位という成績を収められました。今後の更なる活躍を祈念しています。

※1 スカイランニング：山岳を空に向かって駆け登るスポーツ
※2 VK（パーティカルキロメートル）：駆け登りレース（距離5km以内）
※3 SKY（スカイ）：中距離レース（距離20～49km）



学長に出場の報告に来た若林さん（中央）と陸上部顧問の大学教授（左）



日本代表チーム（左端が若林さん）



若林綾さんのコメント

結果としては目標としていたところに届きませんでしたが、レースではVK、SKYともに自分の力を全て出し切れました。初めての場所で慣れない環境の中、色々とアクシデントはありましたが、それもすべて楽しかったですし、レースではよい方向に修正していくことができ自信になりました。今回のユース世界選手権に関しては、日本代表に選ばれた時からコロナ禍の影響や私自身のケガなど、課題は山積みでした。そんな中にも関わらず、京都芸大の皆さまはじめ、応援していただいた全ての方に心より感謝申し上げます。

京都駅ビルとの連携企画 開催中♪

京都駅ビル開発株式会社と連携し、毎月第2土曜日（8月、1月、2月を除く）に、京都駅ビル東広場において、「駅ピアノ♪マンスリーコンサート in 京都駅ビル」を実施しております。本学学生や卒業生による演奏を是非お楽しみください。

また、昨年はコロナ禍で中止となった、「京都駅ビル芸術祭」を、今秋、京都駅ビルの東広場で開催予定です。今年度は、工芸科をはじめ、さまざまな学生が参加して作品展示等を計画しています。後日、詳細を本学HP等でお知らせいたします。



*新型コロナウイルス感染症拡大防止のための緊急事態措置に伴い、5月、6月のマンスリーコンサートは開催中止となりましたが、今後は感染症対策を徹底したうえで開催する予定です。最新スケジュールは本学ウェブサイトでご確認ください。



本学イベント情報

<https://www.kcua.ac.jp/category/event/>



日本伝統音楽研究センターのロゴマークが誕生！ 講演のDVD他アーカイブを発信中

日本伝統音楽研究センターでは、センター開設20周年を記念し、公式ロゴマークが誕生しました。美術家のフジタ氏によるデザインで、これまで慣例的に使用してきた「楽」の字をもとに、ロゴ

の範疇をはみ出して、踊ったり奏でたりできるキャラクター兼ロゴマークです。新しいロゴマークとともに、今後も伝音センターの活動に是非ご注目ください。

また、これまでに伝音センターで開催した公開講座における演奏、および講演を収録した映像ソフト（DVD）を発行しているほか、伝音センターのこれまでの活動の記録（映像・文献等）が閲覧いただける「伝音アーカイブズ」も更新中。是非ご覧ください。

伝音アーカイブズ

<https://rcjtm.kcua.ac.jp/archives>



平安から唐へ 絃でたどるいにしへの韻ー琵琶・箏の古譜による琴曲の再現-(DVD192分/解説冊子付) 2021年3月発行/¥1,000



能〈羽衣〉楽譜付（その1、その2）
（伝音アーカイブズ2021年07月14日公開）

ギャラリー@KCUAでの 展示・プロジェクトのアーカイブ書籍のご紹介

個々の記録としてだけでなく、10年後にも新鮮な気持ちで読むことのできる本となるようにこだわり抜いて制作されています。毎回工夫を凝らした製本仕様も魅力！

各種刊行物はギャラリー@KCUAでの窓口販売の他、ウェブサイトでの通信販売（お支払い方法は銀行振込となります）を承っています。

ギャラリー@KCUA
https://gallery.kcuu.ac.jp



『Suujin Visual Reader 崇仁絵読本』
大学移転予定地である崇仁地域の魅力を伝えるべく、その歴史と京都芸大移転に向けてのプロジェクトとが交わっていくさまを美しい挿絵で迎える。

挿画：森 夕香（本学大学院修了生）
デザイン：松本久木



REPORT @KCUA

（年次報告書）

その年の展覧会に関連した図版がニス引きされた表紙。年月が経ちニスが変色していくにつれ、図が浮かび上がってくる。

デザイン：仲村健太郎



クリスチャン・ヤンコフスキー「Floating World」カタログ

展覧会の内容にちなんで、手で1冊ずつ麻紐で縛って製本された書籍は、なんと全ページ袋とじ仕様！

アートディレクション：松見拓也
デザイン：仲村健太郎

進学希望者一人ひとりとリモートで対話 美術学部ウェブオープンキャンパスを開催

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、昨年度に続き今年度もウェブ上でのオープンキャンパスを開催しました。

8月は美術学部のウェブオープンキャンパスを開催し、特設サイトでは各専攻からのメッセージや動画、学生インタビュー、ライブ配信など様々なイベントを行いました。Zoomを使って教員との個別相談を行うなど、距離は離れていても、参加者一人ひとりと対話を大切にしながら、本学の魅力をお届けしました。

音楽学部オープンキャンパスは ウェブ上と本学内の両方で開催

10月1日から3日に開催する音楽学部のオープンキャンパスでは、「演奏のレッスンだけは直接お伝えしたい」との思いで、感染対策を徹底した中で、完全予約制でレッスン見学を学内で行います。また、教員や在学生がZoomを使って専攻別のガイダンスを行うとともに、各専攻紹介や入試説明等の動画を配信。実技指導の大切さを尊重しながら、安心安全を守る、ハイブリッドなオープンキャンパスで進学希望者をお待ちしております。



WEB オープンキャンパス特設サイト
https://www.opencampus.kcuu.ac.jp



2021年度新任教員

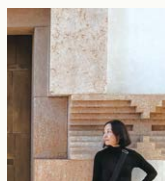
美術学部



安藤由佳子 准教授
彫刻専攻



王 木易 講師
版画専攻



木村友紀 准教授
構想設計専攻



安藤隆一郎 講師
染織専攻

音楽学部



三船優子 准教授
ピアノ専攻



川端美都子 准教授
音楽学専攻

今後のイベント情報

京都市立芸術大学 ONLINE 芸大祭 2021「片道切符でまちあわせ」10/30-11/1開催



他人の世界と自分の世界、本来交わることのない“場所”を訪れる『旅』を全体的なイメージに挙げて、新たな表現や出会いの可能性を感じる場を目指します。旅先で見たもの、触れたもの、出会ったものが自分の一部になっていき、自分もそれらの一部になっていくというゆるやかな互換性にフォーカスを当て、日常と非日常、他人と自分という境界の曖昧さを味わうような、自らが訪問者でもあり歓迎者でもある、今だからこそ出来る旅を。

そしてその出会いがいつまでも自分の中に響くように、帰り道ではなく前を向いて進み続ける先でまた出会えるように、そんな思いで「片道切符でまちあわせ」をメインテーマに掲げています。実地の代替としてではなく、オンラインだから出来る芸大祭を目指し、作品展示・販売に加え、演奏の動画や、芸大祭VR会場、五芸各校とのコラボ企画などを企画しています！様々な媒体で浮かび上がる今年度芸大祭をお楽しみに！！ *今年度もオンラインでの開催です。

新部局長体制

公立大学法人役員

赤松 玉女	理事長(兼 学長)
上田 誠	副理事長
石原 友明	理事
津崎 実	理事
渡辺 信一郎	理事
安保 千秋	監事
長谷川 佐喜男	監事

副学長・部局長

大嶋 義実	副学長
小山田 徹	美術学部長
栗本 夏樹	美術研究科長
砂原 悟	音楽学部長
山本 毅	音楽研究科長
渡辺 信一郎	日本伝統音楽研究センター所長
森野 彰人	芸術資源研究センター所長
小濱 妙美	学生部長・キャリアデザインセンター長
石橋 義正	情報管理主事
礪波 恵昭	附属図書館長・芸術資料館長
天沼 憲	移転準備室長
後藤 天平	事務局長

本学へのご支援 ありがとうございました

2021年1月-7月,
「未来の芸術家支援 のれん百人衆」
にご寄付いただいた方々*をご紹介します。

株式会社一澤信三郎帆布

株式会社永楽屋

株式会社岡野組

株式会社祇園辻利

村山造酢株式会社

*公表に同意いただいた方(敬称略、五十音順)



令和5(2023)年に予定しておりますJR京都駅東部への全面移転に向けて、本年5月には最も京都駅に近いC地区、7月にはA地区でいよいよ建設工事が始まりました。残るB地区も9月着工予定となっています。

また、広く皆様に大学移転を知っていただくために、舟越一郎美術学部教授デザインによる移転ロゴマーク(上記)を制作するなど、大学内でも移転に向けての具体的な準備が始まっています。



キャンパス配置図



C地区での工事の様子

移転整備へのご支援をお願いいたします

本学では昨年から**移転整備募金**の活動を始めています。この募金にいただきましたご寄付は、新キャンパスへの移転に伴い必要となる、作品制作のための機器や楽器の購入など、教育研究環境の充実のために活用させていただきます。ご寄付いただいた方は、手続きを行うことで税控除や損金算入の措置を受けることができます。皆様からの温かいご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



制作機器や楽器の購入などに充てさせていただきます。

京都市立芸術大学 移転整備募金の概要

移転整備募金ウェブサイト

<https://www.kcua.ac.jp/contribution/itenseibibokin/>



◆募集期間

2024(令和6)年3月末まで

◆寄付の単位

個人 : 1口 1万円

法人・団体 : 1口 10万円

※1口未満のご寄付や複数回のご寄付についてもありがたくお受けいたします。
※複数口のご寄付にもご協力いただけますと幸いです。

◆顕彰

- ・新キャンパスに設置する芳名板への寄付者名の掲示(個人、法人・団体とも10万円以上の寄付者。希望者のみ)
- ・ウェブサイト芳名録への寄付者名の掲載(希望者のみ)
- ・本学主催の演奏会等への招待

◆申込の方法

① 本学ウェブサイトからのご寄付(クレジットカード、コンビニ払い、ペイジー)

上記ウェブサイトからお手続きいただけます。

継続的なご寄付(定期自動引き落とし)もお申込みいただけます。

② 金融機関窓口・ATMでのご寄付

- ① 上記ウェブサイトの専用フォーム、
- ② メール(itenseibibokin@kcua.ac.jp)、
- ③ お電話(075-334-2285)のいずれかにてお申込みいただいたうえ、右記の口座までお振り込みください。振込用紙が必要な場合は郵送させていただきます。

口座名義	京都市立芸術大学
名義カナ	キョウトシリツゲイジュツダイガク
金融機関	三菱UFJ銀行(金融機関コード: 0005)
支店	京都支店(支店コード: 431)
種別	普通預金
口座番号	3838822

③ 大学の窓口でのご寄付

本学にお立ち寄りの際などに窓口担当者(移転準備室)にお声かけください。

ふるさと納税でもご支援を!

京都市のふるさと納税でも大学の移転整備をご支援いただけます。詳しくは京都市のホームページにて。



上野の森美術館大賞 受賞作品

《庭》 尾崎 晴さん

大学院美術研究科修士課程 絵画専攻（日本画）1回生



尾崎 晴《庭》岩絵具・和紙 M80

尾崎 晴さんのコメント

《庭》は、実家の庭を日本画作品として描いたものです。一つの景色を見ていても、瞬間によって捉え方は変化します。コロナ禍の自粛期間中にも、私たちはものを見て、そこから何かを受け取ることを続けていました。そういった状況で、目で見ただものの不確定要素を拾い上げ、解釈の流動性を表現したいと思い、この作品を制作しました。今は、似たテーマで人間を描いています。様々な人に作品を見てもらえるよう、精進していきたいです。

上野の森美術館大賞

次代の美術界を担う個性豊かな作家を顕彰助成する目的で、1983年から毎年選出。日本画・油彩・水彩・アクリル・版画などの素材の違いや、具象・抽象に関わらず、作品を公募。受賞作家には作家活動奨励のため、上野の森美術館ギャラリーにおいて翌年に入賞者展、絵画大賞受賞者には、翌々年に個展開催の機会が設けられている。